

## 「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

昨年の春の選抜高校野球大会に選ばれた当校が、東日本大震災発生後早々に対策本部を立ち上げ、率先して応援自粛と、そのエネルギーを被災地の復興発展支援に向けて早くも十か月を過ぎました。宮城県石巻市を中心とした浦学独自の小さいながらもきめの細かい支援活動を皆で考えて行動しました。そして我々は現地の素晴らしい方々を直接知ることが出来て、その方々の支援で我々の活動が継続して可能になっております。

石巻市と浦学との往来が重なるにつれて、私たちは支援しているという意識が無くなってまいりました。なぜかというと、私たちが現地の方々から頂いているものの方がはるかに大きいと感じるようになったからです。学校という教育の場であって、教職員と生徒たちは実に多くの素晴らしい心を持った当地の方々のお話と行動を知ることができ、また実際に現地を見る機会を得て、いろいろなことを身体全体で感じる事が出来ました。私はこの交流を通じて、皆が「何を感じ、何を考え、何を行うか」の精神を行動として実践できるようにしようと言いつけています。

こうした背景で、私は「支援」という言葉を使うのに少し抵抗を覚えるようになり、代わりの良い言葉がないか……と皆に問いかけて、今まで使用していた支援プロジェクトの表題を改変することになりました。

浦和学院高校 復興支援プロジェクト 「笑顔・希望」—明日へ、を

浦和学院高校 石巻交流プロジェクト 「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

とすることになりました。石巻およびその周辺の方々との交流の中で、ごく自然に友情のような感覚が我々の中に育まれて来たからです。そして、その友情が永く続くようにという願いも込めてあります。

「常に前向き、そこに夢と希望がある」という当校の姿勢で、石巻の皆さんとの交流を今後も継続推進していきたいと願っております。

浦和学院高等学校 校長 小沢 友紀雄